

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200446		
法人名	NPO法人 不知火福祉会		
事業所名	グループホーム白梅の里(東)		
所在地	熊本県宇城市不知火町亀松543		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一期一会の理念を基に、全職員はご利用者様の尊厳や自立支援を図ると共に、ご家族様との信頼関係を構築できる様努力し、日々のケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

不知火の地に開設した『白梅の里』は、昨年まる10年の月日を迎えている。代表者のこだわった設計により木目を活かしどの部屋の採光も平等に、入居者が使い勝手よく利用できるよう設けられた16箇所のトイレなど、ホーム内は経年しても細やかに手入れされている。一人ひとりの楽しみごとを日々の暮らしの中で、どのような笑顔を見せてくれるのか、職員はチームワークをもって観察を行い、その方の好きな事、行きたい場所、安心される取り組みを把握し可能な限り早急に対応している。車いす利用者も増え、決して活動的な日常ではないもののゆっくりとした時間を楽しまれる方、同法人の幼稚園バザーに出品する針山作りに精を出される方などそれぞれのユニットは入居者の状況によって活動は異なるが、中廊下を通じ入居者はご近所さんとしてお互が行き来する姿に職員の志が一つであることを窺える光景であった。今後も『一期一会』の精神で、入居者支援に年月を重ねていかれることに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一期一会の理念を基に全職員は、ご利用者の尊厳や自立支援を図る事を念頭に日々のケアに取り組んでいる	開設時よりの「一期一会」をもとに、毎月目標を掲げている。代表は年度初めの会議の中で人に接する心構えや仕事をするとき、ものを想うとき、己を責めるとき等の心構えを示した白梅の格言及び、一期一会、礼儀や挨拶・言葉使い等を訓示している。職員は入居者を中心に、明るい職場を目標として真摯にケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者は出来る限り地域の人と接して頂ける様に地区の福祉会の参加や近隣の散歩の時に交流が出来る機会を作る。	入居者が地域とつながりながら生活できる様近隣の散歩やマラソン大会には沿道での応援に出かけ、地域住民との交流促進に努めている。定例となっている幼稚園との相互交流(マーチングバンドの慰問、運動会見学)や、地域の清掃活動への参加はあるものの日常的なかかわりは少なく、今後も出来る限り地域に出かけ交流する機会を作りたいとしている。	運営推進会議の中で、開かれたホームとしてボランティア等何時でも来てくださるよう依頼されている。今後も身近な近隣住民との交流に取り組まれることにより、地域との密接な関係性の構築に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	白梅の里のありのままの姿を地域の皆様に見て、接して頂いている。これからは、ホームから地域の人々の為に、私たちの知識をお話ししたり、アドバイス出来ればと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催している。テーマに基づきさまざまなご意見を出して頂きホームの運営やサービス向上に活かしている。その時に地域の情報も得る事が出来る。	行政・地域包括・交番・老人会・区長・婦人部長・民生委員・近隣住民・家族等充実したメンバーのもと開催される運営推進会議は、年間テーマが設定されている。地域連携会議の説明や認知症について等研修を基にした意見交換が行われ、入居者4～5名の参加は認知症啓発の一環として生かされている。	充実したメンバー構成であり、今後もホームの現状を発信し、課題を具体的に話し合う機会とされることを期待したい。全職員で今後の運営推進会議の進め方等を検討されることが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者は、常に行政に出向き、相談やアドバイス、指導を受け課題解決に共に取り組んでいる。	代表は記録の仕方等行政に尋ねに出向く等、疑問が生じた事案の解決に向け相談している。また、行政が開催する研修に参加したり、実地指導を質の向上に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に出席したり、勉強会を開いている。玄関は夜間以外は施錠せず外出したがるご利用者には、職員が見守ると共に同行したりしながら本人の気持ちに寄り添っている。	身体拘束及び虐待防止等の外部研修への参加をもとに、ホームでも勉強会を開催しており、拘束の弊害を全員が正しく認識している。転倒予防としてセンサーマットを利用する場合は家族への説明と同意を得、毎月の勉強会の中で、代表は言葉使いや言葉による拘束及び無視をしない事等を指導している。入居者の外出傾向を把握し、外に出たい等の要望に、職員は寄り添い、ドライブや買い物等を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関したセミナーに積極的に参加し、勉強した事を他の職員と共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	セミナーに参加し勉強してきた事を他の職員にも伝達し、資料等も配布して共に学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約はもとより、改定等もご利用者やご家族様が納得されるまで、説明を行っている。同意を得てから契約を結んで頂くよう努める。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族様には、いつでも遠慮なくご意見、ご要望、苦情等をお聞かせ下さいとお願いしている。その様ないろいろなことを言える様な関係作りを心がけている。	利用者には日々の関わりやアセスメント時に聞き取りている。利用者の中には代表や管理者に相談事を直接申し出られる等良好な関係性であることが窺われる。家族には訪問時に意見や要望等が無いのか聞き取りしているが、あまり申し出は無く、ホーム側から今後の対応を相談している。玄関には意見箱を設置し、ホーム内外の苦情相談窓口や担当者を明示している。	家族会は家族同士の交流の機会として盛会に開催されている。この家族会の中でホームの現状を発信し、意見交換を行われることを期待したい。また、ホーム独自のアンケート調査を検討いただき、家族の忌憚の無い意見や要望を今後も運営に反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が気兼ねなく気付きや意見などが言える職場作りに努めている。	各管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、何でも気兼ねなく申し出て欲しいと投げかけている。職員の観察や気づき、重要案件は申し送りノートにより共有化とし、毎月の勉強会の中で意見交換を行い、常に報・連・相を徹底している。また、希望休等により働きやすい環境を作り、資格取得に向け自己研鑽に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	皆楽しくやりがいを持って仕事をしている。 勤務希望シフトなども考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各個人が希望や推薦によりセミナー等に参加させて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会議や勉強会に参加し、他の事業所の人とコミュニケーションを図り、お互いの施設のサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始に限らず、利用者に対して受容と傾聴を心がけて、言葉だけではなく表情からも訴えを聴きとり安心して頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や利用開始時まで、本人の生活暦ではなく、生活現況や心身状況を聴き取り、本人やご家族が困っている事や要望を明確にするように努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の際、そのニーズがグループホームに合っているかを見極め、その方の状況にあっている支援はないかを検討しながら対応します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活暦やご様子、言動から本人の役割を考えケアに取り入れたうえで、支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のご様子などを面会や月1回のお便りでお知らせしたり、必要に応じて電話などで連絡して相談しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みの方と会う機会を設けたり、馴染みの場所を訪れたりしています。	家族の面会や1・15日の神社の祭りに自宅への帰宅を支援したり、命日の墓参り等これまでの関係性が途切れないよう支援している。2ヵ月毎に訪問される美容師との関係も築かれ、縫い物等の得意分野を発揮させており、針山・バック等は幼稚園のバザーに出したり、雑巾は贈呈する等入居者の自信や満足感に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や個性を観ながら、席を配慮したり、その時々で変化を付けながら気を配っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、入院先に面会に行ったり、ご家族に様子をお聞きし、つながりを継続しています。ご家族様も訪ねて来られます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様から意向を聞き又、毎日の生活の中から見出し、サービス計画に反映している。	入居者の希望等日常の関わりで聞き取りし外出支援に繋げているが、意思を発せられない入居者にはどうすれば笑ってもらえるのか、楽しい生活に繋がるか思考しながらケアに反映させている。意思疎通や視力低下等も見られ、笑顔での関わりやタッチングにより笑いや発語を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り調査により情報を収集し把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する能力が最大限に活用できる様、状態変化の気づきを把握し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員出席のもと、担当者会議を行い、それぞれの立場からの意見をだしあい、プランに反映している。	入居当初は暫定プランを作成し、本人の様子や家族の意向を聞きとり正式なプランを作成している。毎月のモニタリング及び6ヶ月ごとに本人も含め各ユニットの職員で話し合い、ケアマネジャーが総合的に評価し、新たなプランを作成している。また、24時間生活シートの中にプランを記し、ケアに反映させている。	本人との会話により、本人の思いを更に引出しプランに反映させたいと意欲的である。今後、ADLやIADLの変化や家族・本人の意向の変化及び職員の気づき等も反映した個別プランの作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、観察表、個人記録に毎日の状態を記載し、情報の共有に当てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに合わせ、針灸・歯科通院・眼科受診等かかりつけ医以外、ご家族と相談のうえ、多方面にわたりサービス対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室やかかりつけ病院等出向ける方は同行支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の受診や、往診を受けて頂き、体調管理に努めている。急な病気に対しても往診をして頂く等適切な医療を受けられるよう支援している。	地域の中にある協力医療機関をかかりつけとされる方が殆どであり、往診や職員対応による受診支援が行われている。また、他の機関や耳鼻科など専門受診に家族の協力もあるがホームが中心に対応し、結果を共有している。インフルエンザなど感染症治療薬については家族の了解により服薬を行っている。ホームは日々のバイタルチェック、口腔ケアの徹底や熱発など緊急往診にも対応をいただく協力医との連携を図りながら入居者の健康を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の報告の中で、状態の変化に気づき看護師に伝達され、アドバイスを受け介護に当たっている。又、必要時受診できる仕組みになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報を提供し、又入院中の情報も把握しながら、一日も早い退院ができる様努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階的にご家族との意向を聞き取りながら、現状を常々説明し状況を知って頂く。事前指定書を記入する事で、よりいっそう終末期に対するケアを充実させ、ご家族とも満足される支援を行っていく。	契約書の中での取り支援に関する指針のもと、ホームの考え方や医療行為を判断する目安等の説明を行っている。家族の殆どがホームでの支援を希望されており、そのような状況になった場合は、医療機関の事前指定を受け、必要に応じ主治医や個別で話し合いを重ね、本人・家族の思いに沿いながらホームに出来る最良の支援が行われている。又、県内にある『終末期医療を考える会』の取り組み、“寄り沿う看取り”冊子を用いながら、人生の最終を支えるという重要な場面であるということとを共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自研修で学び、知識を深め実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災はもちろん、地震や津波時の避難計画を検討し終え、地域の避難訓練等に職員だけが参加している。今後ご利用者と共に避難訓練を重ね全職員との協力体制を構築する。	今年度1回目の火災避難訓練は、前回の指摘事項を活かし早急な対応が行えたと管理者は語っている。地域消防団と日頃から交流があり、地震や津波発生時には、地区の避難場所へ順序に従って避難することが確認されている。ホームでは乾物や米・水等備蓄し、職員も内容を共有している。運営推進会議に交番から参加が得られていることは心強く、会議の中で災害対策について話し合われている。	今後、避難口を増やすことが検討されており、実現が期待される。また、先ずは火を出さないことを全職員が共有し、今後も日々の安全点検の徹底に努めて頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、尊厳の念をもち言葉遣いや口調に配慮している。	人生の先輩である入居者の支援にあつては、代表者も機会あるごとに口頭や書面で指導が行われ、各ユニット管理者も優しい対応を伝えている。呼称は苗字に限らず、その日の要望や機嫌などで変わられることもあり、その時に応じ対応するなど、職員は一人ひとりの入居者に尊厳の念を持って日々支援している。写真など個人情報の使用にあたっては家族の了承を得ており、職員の守秘義務についても周知を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつも傾聴する姿勢を持ち、相手に合わせた対応を心掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のニーズの把握に努め、個別に配慮しながら、様子に合わせて支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望された方は、定期的に訪問美容室にきてもらい、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感が持てる献立を考えて提供したり、利用者の意向に添った献立を入れたりしながら食べる事を楽しんで頂いている。お誕生日はご本人の食べたいメニューにして誕生日会を行っている。手作りおやつを一緒に作ったり、マイ箸を使用している。	半月ごとでローテーションする献立は食材や調理方法など季節感を取り入れ、差し入れ野菜も活用しながらその日の担当職員によって調理されている。高齢の入居者にとって誕生を迎えるという喜びに応えるため、希望のメニューに加え、鯛の塩焼きを沿え家族へも参加を呼びかけるなど心ある取り組みである。行事食をはじめ食事提供について、運営推進会議や毎月の便りの中で写真付きで紹介されている。入居者は味付けや下膳、食事前の挨拶など出来ることに取り組んでおり、職員も一緒に同じ食事を摂っている。身体状況の異なる両ユニットは、食事の開始や会話の状況もそれぞれであるが、形態や服薬が苦手な方への工夫など個々に応じた一連の食事状況が確認された。	ホームでは毎日3食の食事について、献立名の他、細かな項目（材料明細や買物・調理係など）の記録が作られているが、活用には至っていないようである。今後は入居者の発せられた言葉や職員の感想など、今後に活かすべく記録内容を全職員で検討されることも必要と思われる。また、こぼしがちな方などのエプロンの使用にあたっては、直前の着用支援や使用方法についても検討されることを望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事形状や量、制限が違う為、留意点を把握する。熱中症対策として、時間を見ては早めの水分補給にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保つと共に、誤嚥性肺炎の予防に努めています。義歯は夜間浸け置き消毒しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えにすぐ対応し、排泄パターンや時間を観ながら誘導しています。ご自分で出来る方は、見守りをし出来ない方のみ支援を心がけます。	入居者の自立や気持ちの良い排泄、家族の負担軽減も考慮し、排泄チェック表を活用しながら個別支援に努めている。入居者は布下着やリハビリパンツ、紙オムツ、ポータブルトイレなど昼・夜や状況に応じた排泄用品の組み合わせを検討し支援されている。ポータブルトイレも使用しない昼間はクロス掛けや天日干し、トイレ内に排泄用品を置く際はケースに入れるなどプライバシーに配慮した取り組みである。ホームの特徴である多くのトイレ（各ユニットに7箇所、共用空間に2箇所）は、いつでも気持ちよく使用できるよう清潔に管理されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しては、水分摂取や食事にも配慮し体操等参加して頂き、自力排便に繋がるよう努め出来ない場合は、医療と連携し排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に1日おきの入浴を勧めているが、希望する人に対しては関係なく入って頂き、体調をみながら無理強いしない様に努める。菖蒲湯など季節によって入浴も楽しんでいる。	入居者の寛ぎの時間でもある入浴は、体調にも配慮し基本的に一日おきとしているが夏場や希望があれば毎日支援している。また、清拭や足浴、身体的に入浴の負担が大きい方には3日おきに2名体制など個々の状況に応じ取り組んでいる。脱衣場は季節に応じた室温に努め、個別に衣服や肌着など種別で収納できる棚の設置により、衣服の管理が細かに行われている。更に双方の管理者は、以前出かけていた温泉施設の利用も検討していきたいとしている。	両ユニット共に一般浴と疲労回復などにも効能がある自然石を使った露天風呂が設けられているが、身体状況からもここ数年は利用されていないようである。今後はこの浴槽を足浴に活用することも一案と思われる。また、菖蒲や柚子湯支援に加え、茶や他の柑橘など職員のアイディアを活かした季節湯支援にも期待したい。合わせてカミソリなど危険物の保管にも十分な配慮を望みたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせて自由に休まれてり、眠れない場合は、担当医師の指示の基、眠剤等の処方をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員管理にて指示通りの服薬をしている。常にかかりつけ医との連携を図っている。内服薬に関しては利用開始や内服薬変更時は情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にアセスメントした中で、生活暦の中の趣味や得意な事を見つけ発揮できるよう機会を作ります。生活の中に役割や生きがいを持って頂けるように導いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜見学やあじさい見学、祭り等参加しています。職員と一緒にバザーに出品する小物の布を買いにでかけたりしています。家族による法事や墓参りなど協力も得られている。希望される利用者には自宅への外出支援を行っている。	入居者は身体的に頻繁な外出は困難な方もおられるが、両ユニット共に季節や天候の良い日は車椅子利用の方も、職員や入居者がサポートしながら散歩に出かけている。また、「命日に墓参したい」、「気になる漬け物を取りに帰りたい」「自宅の鳥居を参りたい！」など、家族の対応が困難な場合は、職員や代表者も加わり可能な限り個々の希望に沿った外出を支援している。近くの沿道でマラソン走者の応援や地元商店の利用・同法人の幼稚園も地域と捉え、運動会やバザーなどに出かけている。外出支援の様子は毎月の報告書や運営推進会議の中で伝えられている。	今年度ホームに買い換えられたワゴン車が仲間入りしており、今後の入居者の外出の幅を広げていくと思われる。季節や状況に応じた取り組みが展開されていくことに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりにお金の状況は説明を行い、ご自分で管理出来る方は利用者の希望に応じてお金を所持したり、使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、いつでも連絡出来る様に電話にしても、手紙にしても支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、安心・安全な空間作りを目指している。季節を感じ花の香りにより癒しの空間作りに努めている。	玄関から左右に分かれたそれぞれのユニットは、入居者の状態に応じながらリビングのテーブル配置やテレビの音量など安全や過ごしやすさに配慮した空間作りに努めている。「花を飾って～！」との要望に職員は散歩やホーム周辺、敷地内で摘んだ花を心がけて飾るようにしている。また、入居者の作品や置物などからも季節感を感じ取れるように努めている。職員間ノートにより、排泄用品処理室の毎日の掃除や水漏れの確認チェックなど申し送りを徹底している。玄関の窓開けを早めに行い、入居者に気持ち良い朝を提供することなど法人代表者のコメントも記されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等にソファを置き、テレビ視聴、新聞等を見て頂き、なるべくその人の心地よい場所になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた馴染みの物を置いて頂き、自由にゆっくりくつろげる空間であるように支援する。	どの部屋の採光も考慮して設計された居室は、部屋の入り口に掲示された個々の設定温度を全職員が共有することで、健康支援や過ごしやすい空間を提供している。備え付けのクロゼットにより居室内の空間も広くなり、思い思いの品の持ち込みを可能にしている。こもりがちなクロゼット内も入居者の希望により昼間は扉を開け換気されている。また、「布団の方がベッドよりいい！」と希望される方もおられ、要望に沿って安眠できるようにしている。遠方に家族がおられ荷物が多い方の居室については、季節ごとの衣類管理や整頓に努めることで本人・家族の安心に繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることを理解し、その力に応じた行動を見守り、安全に過ごせるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200446		
法人名	NPO法人 不知火福祉会		
事業所名	グループホーム白梅の里(南)		
所在地	熊本県宇城市不知火町亀松543		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	2015/2/10

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、日本古来の伝統行事をあます事なく行っており、遠い昔自分たちが楽しまれて来られたことを思い出され、笑顔になって、残された年月を精一杯楽しく笑顔でお過ごし頂けますよう理事筆頭に、職員一同励めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一期一会の理念をいつも心に置き、ご利用者様に対し尊厳を持って接し悔いのない介護をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員と地域の人とのつながりは、随分出来てきている。道でお会いしたら声かけあったりしている。今後は、ご利用者様と地域の方が顔見知りになられる様地区活動に参加してもらう様努力する。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会全体が今、認知症を理解しようとしてる中で私たちの知恵と経験を地域の皆様に役立てて頂こうと模索中です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議では、ホームの現状報告をしながら専門分野の方にはお話しをして頂き、時には、ご利用者様もその中に加わり、色々刺激を受けていらっしゃると思います。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者は、常に市町村担当者と連絡を取り、相談をしアドバイスを頂き、良いケアサービスによりよい運営が出来る様努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を以前からからしている為、全職員周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様の事を常に尊敬と尊厳を持って接する様、理事長より指導を受けております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	セミナーなどに参加したり、又その資料を勉強会の時配布し共に理解してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	昨年新しく契約書を作成し、気持ち新たにご家族様にはきちんと説明し疑問・不安な事はいつでも充分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつも笑顔で話し合い、雰囲気作りを心がけている。ご家族面会時には必ず一言声かけを行い、親しみやすい関係作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、しっかり受け止め効率よく仕事ができる様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明るく笑顔の絶えない働きやすい職場を目指し勤務希望シフトなども考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に職員の資質向上に努め、セミナー等の勉強会には、積極的に参加するよう勧めている。今年度3名介護福祉士に合格し、事業所にとっても、プラスと自負している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会議や、勉強会には、積極的に参加し、他の事業所の話などから学べる事は学び質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に笑顔と優しい気持ちで、ご利用者様の言葉、行動を重視し、信頼構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にお会いできた時は、必ず会話をし、相互の信頼関係が出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議には、出来る限り、ご家族様にご出席頂き、最良のサービスが出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来るお手伝いをして頂き助け合える関係を感じて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られたら居室に入られるので、お茶等をお出して少しでも長くご面会される様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、馴染みの美容室などに行かれていたが、最近は、友人に電話されたりして、なつかしい声を聞かれ喜ばれている機会を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	若いご利用者様が高齢のご利用者様の事を気にかけて見守りして頂いている、そんな支え合いの精神の支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、年1. 2回の便りを頂いたりさし上げたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントするとき、ゆっくり時間をかけ色々な話をしながら、ご希望などを聞き日々の生活で喜怒哀楽を見逃さずケアプランに生かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り調査により情報を収集し把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する能力が最大限に活用できる様、状態変化の気づきを把握し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員出席のもと、担当者会議を行い、それぞれの立場からの意見をだしあい、プランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、観察表、個人記録に毎日の状態を記載し、情報の共有に当てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに合わせ、針灸・歯科通院・眼科受診等かかりつけ医以外、ご家族と相談のうえ、多方面にわたりサービス対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室やかかりつけ病院等出向ける方は同行支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の受診や、往診を受けて頂き、体調管理に努めている。急な病気に対しても往診をして頂く等適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の報告の中で、状態の変化に気づき看護師に伝達され、アドバイスを受け介護に当たっている。又、必要時受診できる仕組みになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報を提供し、又入院中の情報も把握しながら、一日も早い退院ができる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階的にご家族との意向を聞き取りながら、現状態を常々説明し状況を知って頂く。事前指定書を記入する事で、よりいっそう終末期に対するケアを充実させ、ご家族とも満足される支援を行っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自研修で学び、知識を深め実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災はもちろん、地震や津波時の避難計画を検討し終え、地域の避難訓練等に職員だけが参加している。今後ご利用者と共に避難訓練を重ね全職員との協力体制を構築する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生経験豊かなご利用者様の事は今、現在がどうであろうと人として大先輩として接し、丁寧に又尊敬の念と尊厳を持って接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の要望等を出来る限り応えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食・10時のお茶・昼食・おやつ・夕食などは、決められた時間で行なわれるが、それ以外の時間はご利用者様の気持ちのままに自由にして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔、着替えを介助、整髪しリビングにて朝食をとって頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生会には、ご本人の好物を提供し喜んで頂いている。又他のご利用者様も、喜ばれている。又片付けなども喜んでお手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体の具合や健康を考慮し、お食事を提供している。摂取された量が少ない時は、栄養補給を補助食で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいをして頂き、清潔を保っている。ご自分で出来ない人は、口腔ケア道具を使って行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見てトイレ誘導しなるべくリハパンやパットが少なくなるよう、ご家族様のご負担も考えて行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を毎日記録し、どうしても便秘される方には、服薬等で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調の事も考慮し、1日おき入浴して頂いている。1日に多い時は、なるべくご利用者様の希望に添った時間帯で支援している。異性の介助を嫌がられる時は、なるべく同姓で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調を考慮し、自由にベッドで休息したり、ゆっくりテレビを見られたり安心しておくつろぎ頂ける様見守りしながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食事後、一人一人に職員が封を切り、必ず服薬されるまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみは、一人一人違うので、日々の暮らしの中でどんな時に笑顔をみせられるか良く観察して好きな事をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員付き添いのもと、天気の良い日は、車イスのご利用者様を元気のいいご利用者様が押して近くの神社まで行かれる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	松橋の初市にお小遣いを少し持って出かけ、アメ等ご自分の好きな物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様より、「会いたい」「〇〇と話したい」との要望時には、電話してあげれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、清潔で明るく廊下等には物を置かない様にし、安心・安全な空間づくりをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの近くにソファを置き、ゆっくりご自分の好きな番組を見たり、気の合う人とお話して楽しく過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご利用者様の使い慣れた物を置きご自宅にいる様な雰囲気を感じてもらえるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーで、長い廊下は手摺りがあり、目の不自由な方でも、一人で歩けるようになっている。		